

2010 年 IEEE 関西支部
総会資料

2010 年 2 月 22 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

Program

I.	2010 年関西支部役員・理事	p.2
II.	2010 年 Kansai Chapter 役員	p.5
III.	2009 年関西支部活動報告	p.7
IV.	関西支部会員数	p.18
V.	2010 年関西支部活動計画	p.20
VI.	2009 年関西支部会計報告	p.25
VII.	2010 年関西支部予算案	p.26
VIII.	受賞者	p.27
IX.	関西支部 Bylaws	p.28

2010年IEEE関西支部総会

1. 日時： 2010年2月22日（月）15時00分～17時30分
2. 場所： 中央電気倶楽部 5階 513号室
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2009年活動報告および2010年事業計画
 4. 2009年会計報告および2010年予算案承認
 5. Chapter役員および活動紹介
 6. IEEE関西支部 GOLD 賞授賞式
 7. IEEE関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE関西支部メダル授賞式
<休憩>
 9. IEEE関西支部 新Fellow紹介及びスピーチ
 10. 閉会の挨拶

I 2010年関西支部役員・理事

Section Officers

Chair:	中村 行宏	(立命館大学)
Vice Chair:	櫛木 好明	(パナソニック)
Secretary / Treasurer:	上田 大助	(パナソニック)

理事

MDC Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
NC Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
SAC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
TPC Chair:	山田 武士	(日本電信電話)
AC Chair:	菊野 亨	(大阪大学)
COC Chair:	山本 幹	(関西大学)

理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	松本 紘	(京都大学)
Past Vice Chair:	千葉 徹	(シャープ)
Past Secretary / Treasurer:	岩瀬 哲雄	(シャープ)
Past TPC Chair	三好 正人	(金沢大学)
Past Chair:	白川 功	(兵庫県立大学)
Past Chair:	小山 正樹	(奈良先端科学技術大学院大学)

事務局

事務局 :	東野 秀隆	(パナソニック)
事務局補佐 :	鈴木 友子	(パナソニック)

Committee Officers

a. Membership Development Committee :

Chair :	山内 寛紀	(立命館大学)
Secretary :	吉川 雅弥	(名城大学)
Member :	平松 達夫	(三洋電機)
	坂手 勇次	(オムロン)
	赤木 永治	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	大仲 清司	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	林 栄治	(関西電力)
	太田 有三	(神戸大学)
	酒井 英昭	(京都大学)
	田邊 信二	(三菱電機)

辰巳 昭治	(大阪市立大学)
有本 和民	(ルネサス テクノロジ)
木村 啓明	(ローム)
棚橋 成夫	(京セラ)
鈴木 龍太郎	(国際電気通信基礎技術研究所)
稲井 誠	(村田製作所)

b. Nominations Committee :

Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
Member:	和田 修	(神戸大学)
	山本 裕	(京都大学)
	池田 雅夫	(大阪大学)
	植村 俊亮	(奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee :

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Member:	宮本 伸一	(大阪大学)
	久門 尚史	(京都大学)
	永田 真	(神戸大学)
	芳賀 博英	(同志社大学)
	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
	小橋 昌司	(兵庫県立大学)
	山崎 勝弘	(立命館大学)
	梶川 嘉延	(関西大学)

d. Technical Program Committee :

Chair :	山田 武士	(日本電信電話)
Vice-chair :	廣安 知之	(同志社大学)
Secretary :	中谷 智広	(日本電信電話)

e. Awards Committee :

Chair :	菊野 亨	(大阪大学)
Vice Chair :	楠本 真二	(大阪大学)
Member :	朝香 卓也	(京都大学)
	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	石浦 菜岐佐	(関西学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	岡 育生	(大阪市立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	榎木 哲夫	(京都大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	棟安 実治	(関西大学)

山田 晃久 (シャープ)

f. Chapter Operations Committee :

Chair:	山本 幹	(関西大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	栗井 郁雄	(龍谷大学)
	池田 雅夫	(大阪大学)
	石浦 菜岐佐	(関西学院大学)
	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	小川 晃一	(パナソニック)
	野田 進	(京都大学)
	本原 章	(パナソニック)
	山本 誠一	(同志社大学)
	吉本 雅彦	(神戸大学)
	長谷 智弘	(龍谷大学)

II 2010 年 Kansai Chapter 役員

EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter :

Chair:	大村 泰久	(関西大学)
Vice Chair:	高橋 明	(シャープ)
Secretary:	廣木 彰	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	小瀧 浩	(シャープ)

SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter :

Chair:	吉本 雅彦	(神戸大学)
Vice Chair:	飯塚 邦彦	(シャープ)
Secretary:	川口 博	(神戸大学)
Treasurer:	中島 雅美	(ルネサス テクノロジ)

CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter :

Chair:	石浦 菜岐佐	(関西学院大学)
Vice Chair:	潮 俊光	(大阪大学)
Secretary:	一宮 敬弘	(パナソニック)
Treasurer:	井上 馨	(同志社大学)

APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter :

Chair:	小川 晃一	(パナソニック)
Vice Chair:	真鍋 武嗣	(大阪府立大学)
Secretary:	出口 博之	(同志社大学)
Treasurer:	塩見 英久	(大阪大学)

COMS (Communications Society) Kansai Chapter :

Chair:	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
Vice Chair:	熊澤 宏之	(三菱電機)
Secretary/Treasurer:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)

CS (Computer Society) Kansai Chapter :

Chair:	本原 章	(パナソニック)
Vice Chair:	越智 裕之	(京都大学)
Secretary:	安田 岳雄	(日本アイ・ビー・エム)
Treasurer:	中島 雅逸	(パナソニック)

MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter :

Chair:	石川 容平	(村田製作所)
Vice Chair:	石崎 俊雄	(パナソニック)
Secretary:	柏 卓夫	(古野電気)
Treasurer:	北沢 祥一	(国際電気通信基礎技術研究所)

Photonics Society (formerly LEOS) Kansai Chapter :

Chair:	野田 進	(京都大学)
Vice Chair:	伊東 一良	(大阪大学)
Secretary:	杉立 厚志	(三菱電機)
Treasurer:	加藤 友章	(日本電気)

SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter :

Chair:	榎並 和雅	(情報通信研究機構)
Vice Chair:	酒井 英昭	(京都大学)
Secretary:	林 和則	(京都大学)
Treasurer:	西村 竜一	(情報通信研究機構)

CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter :

Chair:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Vice Chair:	坂本 直志	(ルネサス ソリューションズ)
Secretary:	中西 徹	(日本アイ・ビー・エム)
Treasurer:	植村 渉	(龍谷大学)

III 2009 年 活動報告

1. 総会

2009 年 2 月 24 日 (火) に京大会館 210 号室において、2009 年総会を開催した。GOLD 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、2009 年新 Fellow 2 名 (Fellow 昇格者は計 2 名) による記念講演等を実施した。参加者 : 47 名

2. 理事会

第 1 回理事会 1 月 20 日 京都市リサーチパーク 出席者 : 7 名

- ・ 2009 年総会について
- ・ JC の関西支部代表理事の選定・承認 (2 名) について

第 2 回理事会 2 月 24 日 京大会館 出席者 : 9 名

- ・ 2009 年総会について
- ・ 関西支部役員・理事選出規定改定について
- ・ 協賛会議について
- ・ 技術講演会開催提案について

第 3 回理事会 6 月 2 日 京都テルサ 出席者 : 9 名

- ・ Japan Council 理事会報告
- ・ 125 周年事業について
- ・ WIE 活動について
- ・ Region 10 Meeting 2009 参加報告

第 4 回理事会 9 月 8 日 キャンパスプラザ京都 出席者 : 10 名

- ・ Japan Council 理事会報告
- ・ 各 Committee 活動状況報告
- ・ GOLD 賞、学生研究奨励賞について
- ・ 会計中間報告

第 5 回理事会 12 月 15 日 京都テルサ 出席者 : 14 名

- ・ GOLD 賞、学生研究奨励賞の審査結果報告
- ・ マイルストーン打合せ報告
- ・ 2009 年活動報告、2010 年活動計画について

3. 関西支部主催講演会

Technical Program Committee の企画により以下の関西支部主催講演会を実施した。

・ 関西支部主催第 52 回技術講演会

日時 : 2009 年 3 月 25 日 (水) 13:30~17:15 (参加者 15 名)

場所 : 京都大学情報学研究科 (工学部) 総合校舎

題目 : Topics on Numerical Linear Algebra and High-Performance Computing

講演者 : Julien Langou 氏 (University of Colorado, Denver)

Julie Langou 氏 (University of Tennessee)

・ 関西支部主催第 53 回技術講演会

日時 : 2009 年 3 月 27 日 (金) 14:00~16:30 (参加者 51 名)

場所 : 大阪新阪急ホテル

題目 : コミュニケーション環境と人間

講演者 : 外村 佳伸 氏 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所 所長)

三木 光範 氏 (同志社大学理工学部インテリジェント情報工学科 教授)

・ 関西支部主催第 54 回技術講演会

日時 : 2009 年 6 月 11 日 (木) 14:00~16:10 (参加者 50 名)

場所 : NTT コミュニケーション科学基礎研究所

題目：信号強調と音場再生に関する最近の話題

講演者：Biing Hwang (Fred) Juang 氏

(Motorola Foundation Chair Professor & GRA Eminent Scholar
School of Electrical. & Computer Engineering, Georgia Inst. Of
Technology)

三好 正人 氏 (金沢大学 理工研究域電子情報学系 教授)

・ 関西支部主催第 55 回技術講演会

日時：2009 年 9 月 15 日 (火) 13:00~16:40 (参加者 70 名)

場所：NTT コミュニケーション科学基礎研究所

題目：IEEE 125 周年記念 技術講演会『モノづくりの真髓にせまる研究開発』

講演者：門田 道雄 氏 (株式会社 村田製作所)

吉川 浩一 氏 (株式会社 村田製作所)

秋本 日出夫 氏 (東大阪宇宙開発協同組合 理事長)

・ 関西支部主催第 56 回技術講演会

日時：2009 年 11 月 17 日 (水) 15:00~17:10 (参加者 31 名)

場所：大阪大学中之島センター

題目：IEEE Milestones 認定記念講演会

講演者：白川 功 氏 (兵庫県立大学大学院 教授)

Alexander B. Magoun 氏 (Executive Director, David Sarnoff Library)

4. 各 Committee 活動

a. Membership Development Committee

本年度も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動を広く周知して新会員を増やすことと、Senior Member への Upgrade を推進することを活動の中心とした。結果として、

- (1) 12 月末現在、会員数は 2,204 名となった (付属資料参照)。昨年度同時期と比べて、96 名の増加であり格段の成果を得た。
- (2) 委員会を通じて、新 Senior Member へ授与する「関西支部メダル」の周知に努めた。また、Upgrade 申請がし易いようにホームページを充実し、広く周知させた。しかしながら、本年度の Senior Member への昇格者は、8 人に留まり成果は限定的であった。
- (3) 昨年と同様に Student Activity Committee (SAC) との連携を強めて学生会員の増強をはかった。その結果、昨年同期比で、15 名の学生会員増加を得た。
- (4) WIE (Women In Engineering) の活動を MDC / SAC が支援し、女性会員の活性化をはかることとした。

b. Nominations Committee

- (1) 昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、Senior Member の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。
- (2) 2011 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼し、関西支部からの推薦者を決定することとした。また、Senior Member の方々へ Fellow 制度の案内を行い、昇格への関心の醸成を行った。推薦依頼があった方々に手続き情報をお送りし、関西支部からの Fellow 推

薦準備を開始した。

- (3) 関西支部から 6 名の Fellow 推薦を行なった。2010 年 1 月 1 日付けで以下の 5 名が新 Fellow に昇格した。有本和民 (ルネサス テクノロジ)、羽馬洋之 (三菱電機)、畑 豊 (兵庫県立大学)、大村泰久 (関西大学)、寺西信一 (パナソニック) の各氏である。うち 4 名が関西支部推薦であった。

c. Student Activities Committee

SAC 委員会では、昨年を引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 現存 5 大学 (大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学) の Student Branch を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、Student Branch 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) Student Branch による自主的な活動としては、昨年までと同様 5 大学合同で関西支部 Student Branch 交流会を 12 月 5 日に奈良先端科学技術大学院大学にて企画、開催した。また、立命館大学 IEEE Student Branch で、例年開催している English Presentation Competition を、今年度から関西支部の他の Student Branch からも参加者を得て 10 月 16 日に開催した。優秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。
- (3) IEEE 設立 125 周年記念 Region 10 Student Congress 2009 (7 月 16 日～19 日、シンガポール) に 1 名の学生を派遣した。
- (4) 10 月 24 日に東京都市大学において開催された IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップに 10 名の学生を派遣した。
- (5) Membership Development Committee と Student Activities Committee と合同で委員会を開催 (4 月、12 月)、連携して会員の増強、GOLD 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (6) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。

d. Technical Program Committee

	日 時	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員参加者)	共 催・協賛 組織名
第 52 回	2009 年 3 月 25 日	京都大学 情報学研究科 (工 学部) 総合校舎	Julien Langou 氏 (University of Colorado Denver) Julie Langou 氏 (University of Tennessee)	15(8)	京都大学グローバル COE 知識循環社会 のための情報学教育 研究拠点
第 53 回	2009 年 3 月 27 日	大阪新阪急ホテ ル	外村 佳伸 氏 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所 所長) 三木 光範 氏 (同志社大学 理工学部インテリジェン ト情報工学科 教授)	51(15)	AC・Net (情報通信技 術研究交流会) けいはんな情報通信 オープンラボ研究推 進協議会
第 54 回	2009 年 6 月 11 日	NTT コミュニケーション 科学基礎研究所 (NTT 京阪奈ビル)	Biing Hwang (Fred) Juang 氏 (Motorola Foundation Chair Professor & GRA Eminent Scholar School of Electrical. & Computer Engineering, Georgia Inst. Of Technology) 三好 正人氏 (金沢大学 理工研究域電子情報学系 教授)	50(26)	IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter NTT コミュニケーション科学 基礎研究所
第 55 回	2009 年 9 月 15 日	NTT コミュニケーション 科学基礎研究所 (NTT 京阪奈ビル)	門田道雄 氏 (株式会社 村田製作所) 吉川 浩一 氏 (株式会社 村田製作所) 杵本 日出夫 氏 (東大阪宇宙開発協同組合 理事長)	70(20)	IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter NTT コミュニケーション科学 基礎研究所
第 56 回	2009 年 11 月 17 日	大阪大学中之島 センター	白川 功 氏 (兵庫県立大学大学院 教授) Alexander B. Magoun 氏 (Executive Director, David Sarnoff Library)	31(16)	

e. Awards Committee

2008 年度に引き続き 2009 年「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集・選定の作業を継続して、若手会員の増強を図った。昨年度からは、学生、大学の若手研究者だけでなく企業の若手技術者にも門戸を拡大している。ニューズレターおよび関西支部インターネットを通じて公募を行なった。当委員会による選定の後、受賞者を支部理事会 (12/15 開催) で決定した。なお、2008 年 GOLD 賞 (2 名の受賞者) の表彰楯は Japan Council Section 支援費よりご支援いただき作成を行った。

また、2009 年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。受賞者は支部理事会 (12/15 開催) で決定した。なお、2008 年関西支部学生研究奨励賞 (12 名の受賞者) についても Japan Council Section 支援費より、賞状作成費ならびに副賞のご支援をいただいた。

f. Chapter Operations Committee

2006年度の関西支部理事会において、100名以上の会員をもつソサイエティについては是非Chapterを設立いただきたい、また50名以上の会員をもつソサイエティについては実現可能であればChapterを設立いただきたい、という方向が決定した。この趣旨に則り、2006年にChapter Promotion Committeeを設立し、それ以後以下のように、7 Chapterが新設された。Electron Device, Solid-State Circuits, Circuits and Systemsの3つの既設Chapterとあわせ、関西支部は現時点で10のChapterを擁している。

ソサイエティ	略称	設立時期
Antennas and Propagation	AP-03	2006年12月
Computer	C-16	2006年12月
Microwave Theory and Techniques	MTT-17	2006年12月
Communications	COM-19	2006年12月
Lasers and Electro-Optics	LEO-36	2007年4月
Signal Processing	SP-01	2007年12月
Consumer Electronics	CE-08	2008年12月

2007年度からChapter Operations Committeeと名称変更し、その役割を新しいChapter設立支援のみならず、既設Chapterの活動支援も含むものとしている。今年度は、9月3日にCOC委員会を開催し、既設Chapterのみならず今後新設を検討しているChapterからも参加いただき、年度ごとの提出書式情報、Chapterの活性化に関する情報などを提供した。

5. Kansai chapter活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

5月14-15日の二日間にわたってIEEE EDS 関西チャプター主催の電子デバイス国際会議である”2009 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (2009 IMFEDK)”を関西大学100周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に152名の参加をいただき、2件の基調講演に続いて、6件の招待講演と16件の一般講演、33件のポスターセッション(ショートプレゼンテーション発表付き)を行なった。基調講演は、竹田守氏(パナソニック)に照明技術の歴史と今後の省エネルギー対応について、高倉秀行教授(立命館大学)に太陽光発電の歴史と今後の技術的見通しに関して講演をいただいた。本会議に先立ってGreen ITとGreen Energy技術にフォーカスしたTutorial講演会を行い、若手エンジニアや多数の学生参加をいただいた。

技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを10月22日に関西大学100周年記念館にて開催した。当日44名の関西在住の研究者および学生の参加をいただき、国際レベルの研究成果を日本語にて発表していただき、活発な討論が行われた。また、6月30日に大阪大学工学部にて、大阪大学GCOEの協力を得て技術講演会を開催し、GaN系パワーデバイス技術動向の紹介と議論を行なった。

この他、EDS News Letterに活動成果を投稿し、2009年4月、7月、10月の各号に記事が掲載された。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2009年10月26日に神戸でSSCS技術講演会を主催した。2009年12月15日にも同じく神戸でSSCS技術講演会を主催した。

10月26日は「アナログ・RF技術」と題して、永田真教授（神戸大学）と藤島実教授（広島大学）の2名の講演者を招き、それぞれ「オンチップ・ノイズモニタ技術」と「100Gbps無線通信を目指すミリ波帯CMOS回路」についてご講演いただいた。

12月15日は「イメージセンサ」と題して、黒田隆男氏（パナソニック）と八木哲也教授（大阪大学）の2名の講演者を招き、それぞれ「画像情報の構造から見たイメージセンサの技術トレンド」と「脳の情報処理機能に学んだ集積知能ビジョンシステム」についてご講演いただいた。さらにスペシャルゲストとして九州大学副学長の安浦寛人教授においでいただき、日本の技術戦略について語っていただいた（「フラット化した世界での社会情報基盤の構築－日本の新しい技術戦略を目指して－」）。

それぞれの技術講演会では最新技術情報を提供しており、さらに大局的な講演も含まれている。10月26日の講演会では41名の参加者を、12月25日の講演会では55名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。なお、技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

URL <http://www28.cs.kobe-u.ac.jp/sscs/>

この他、LSIとシステムのワークショップ（5月）、VDEC LSIデザイナーズ・フォーラム（6月）、International Symposium on Dependable VLSI Design（6月）、日本学術会議URSI-C小委員会第21期第4回公開研究会（7月）、シリコンアナログRF研究会（7月、11月）、ICD Summer School（8月）、VLSI夏の学校（8月）、日本－台湾マイクロエレクトロニクスシンポジウム（10月）、VDECリフレッシュセミナー（11月から翌1月）に協賛した。このように、技術者及び学生が多数集まるイベントに協賛することで、活動のアピールと会員獲得に努めた。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2009年は1件のDLP講演会を含む合計5件の技術講演会を実施した。具体的には次のとおりである。

- (1) 2009年8月19日に大阪大学豊中キャンパスにおいて、DLP講演会（Cost effective low power IP designs for mobile communications）を開催した。韓国 亜洲大学の Myung H. Sunwoo 先生にご講演いただき、18名の参加者を得て、有益な技術・研究交流を行うことができた。なお、本講演会は、IEEE CASS Shikoku Chapter（四国大学講演会、徳島大学講演会担当）と IEEE CASS Kansai Chapter（大阪大学講演会担当）の共催である。
- (2) 2009年9月4日に関西学院大学 大阪梅田キャンパスにおいて、技術講演会（VLSIの物理設計におけるタイミングの解析と最適化）を開催した。京都大学の佐藤高史先生とIBM オースチン研究所の Cliff Sze 氏の講演会をいただき、22名の参加者を集め、質の高い講演と議論を行うことができた。
- (3) 2009年9月15日に立命館大学 BKC キャンパスにて、技術講演会（Super-Resolution Imaging）を開催した。シンガポール Nanyan Technological University の Kai-Kuang Ma 先生の講演をいただき、大学、産業界と多くの学生を含む43名の参加者を得て、活発な議論を行うことができた。

- (4) 2009年9月24日と25日に、大阪大学豊中キャンパスにおいて、VLSI設計技術研究会と共催で、VLSI設計技術研究会（VLD）（090924-25@大阪大学）を開催した。約70名の参加者を得て、有益な技術・研究交流を行うことができた。
- (5) 2009年10月29日に立命館大学BKCキャンパスにおいて、立命館大学と共催で、講演会（デジタル信号処理の発展と関連学会の推移）を開催した。20名の参加者を得て、質の高い講演と議論を行うことができた。

以上、最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。なお、技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

URL <http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

4月9日に電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会で、IEEE AP特別講演を、AP-S Kansai Chapter 主催、Japan Chapter 共催で開催した。当日は春木宏志先生（スタッフ株式会社）に「移動体通信用内蔵アンテナの開発と、その商品化を振り返って」のご講演をいただき、38名の参加者を得て活発な議論を行うことができた。

8月27日にキャンパスポート大阪にて、ワークショップを主催した。多賀登喜雄先生（関西学院大学）、前田忠彦先生（立命館大学）に「次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術」についてご講演いただいた。参加者総数は46名であった。

10月10日にはキャンパスポート大阪にて、The 2nd IEEE AP-S Kansai Chapter Young Engineer Technical Meeting を主催した。5件の大学院生による英語口頭発表ならびに質疑討論が行われた。

12月11日には同志社大学にて、アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ（再開催第12回）をAP-S Kansai Chapter 主催、電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会共催で開催した。高橋応明先生（千葉大学）に「無線ICタグ用アンテナの基礎」についてご講演いただき、参加者総数は42名であった。

12月19日には龍谷大学において、関西アンテナ伝播若手技術交流会をIEEE MTT-S Kansai Chapter と共催で開催した。関西電機メーカー等の若手技術者が大学院生を対象に実際の研究開発活動の体験を講演し、討論した。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2009年9月30日にCommunication Society Kansai Chapter 主催の技術講演会および見学会を大阪大学中之島センター（大阪府大阪市北区）において主催した。講演会では、岡田実氏（奈良先端科学技術大学院大学）および赤藤倫久氏（朝日放送技術局開発部）の2名の講師によりそれぞれ「地上デジタル放送の現状と将来」、「インターネット配信技術」と題して講演が行われた。引き続き大阪府大阪市福島区に新築された朝日放送新社屋の見学会を開催した。TV・ラジオ・ニューススタジオ、編集ブース、マスターコントロール室、など、最新デジタルスタジオ設備や送出設備を見学した。出席者数は38名であった。2009年12月24日には、奈良先端科学技術大学院大学（奈良県生駒市）においてCommunications Society Kansai Chapter 主催の技術講演会を開催した。齋藤将人氏（奈良先端科学技術大学院大学）および岡田実氏（奈良先端科学技術大学院大学）より、

「MATLAB と IT++による通信システムのシミュレーション」と題して、主として学生向けに演習を入れつつ講演を行った。最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

7月10日(金)に、森健一氏(株式会社東芝セミコンダクター社 システムLSI 開発事業部 先端 SoC 開発センター SoC 設計担当)を招いて、“メディアストリーミングプロセッサ「SpursEngine」の開発”と題して講演を主催した。Cell Broadband Engine と共通コア SPE を持つ「SpursEngine」の開発においてソフト、ハードの技術的な側面からだけでなく、応用製品化におけるプロジェクトマネジメントや、ビジネスの側面から見た製品化にいたるまでの経緯が紹介された。講演会では、25名(IEEE 会員:18名)の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。

12月22日(火)には、内山邦男氏(株式会社日立製作所 理事 研究開発本部 技師長)を招いて、“低電力ヘテロジニアス・マルチコア技術”に関する技術講演会を主催した。多種の演算処理を高性能でかつ低消費電力で実行するために、ヘテロジニアスな並列処理を実現する手法、およびそれを組み込みプロセッサと動的再構成プロセッサを組み合わせたテロジニアス・マルチコア・チップによる実現例を紹介いただいた。参加者34名(IEEE 会員:24名)との間に活発な質疑応答がされ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

これらの分野の技術講演会を開催することで、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会の詳細は下記の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

技術講演会としては、最近、マイクロ波分野のみならずエネルギー伝送技術分野でホットなトピックとなっている「無線電力伝送」に関するワークショップを企画・開催し、居村岳広様(東京大学)、大野泰夫教授(徳島大学)、藤原暉雄様(翔エンジニアリング、IHIエアロスペース)、三谷友彦助教(京都大学)を招いて技術講演を行った。出席者はこれまでの関西チャプター単独主催事業としては最大規模で83名であった。また、ミリ波だけでなくさらに高周波帯域において将来有望な導波路構造として期待される「Substrate Integrated Waveguide (SIW)」に関するワークショップを企画・開催し、この分野で世界的な権威であるKe Wu 客員教授(京都大学)、太田勲教授(兵庫県立大学)、廣川二郎准教授(東京工業大学)を招待して技術講演を行った。出席者は、59名であった。

また、3月28日(土)と29日(日)の2日間にわたり、若手の技術者を対象として「関西マイクロ波講習会」を企画・開催した。講師は本チャプターの前委員長、豊橋技術科学大学の太平孝教授で、一回あたりの参加者は10名程度と少人数に絞り(参加者11名)、演習時間を豊富にとり、講義を聴くだけではない実習型の講習会とした。

6月27日(土)には「第2回マイクロ波英語発表会」を開催した。これは学生、および企業入社後数年の若手技術者に対し英語で研究発表する場を与えるもので、11件の発表があり、そのうち3件をBest Presentation Awardとして表彰した。出席者は48名であった。

一昨年より毎年開催している「メタマテリアル」に関するワークショップを12月5日（土）に開催した。講演者は、北野正雄教授（京都大学）、佐藤和夫様（豊田中央研究所）、内田浩光様（三菱電機）、田村昌也様（パナソニックエレクトロニクスデバイス）である。また12月19日（土）には「若手技術交流会」を開催した。これは企業の若手技術者約5名に、大学生・大学院生を対象として企業における研究の実態や魅力について講演していただき、また企業研究所といくつかの大学の研究室によるポスター発表を行って、大学生・大学院生と企業の若手とが交流する場を提供する新しい形式の技術交流会である。昨年開催したところ大盛況であったことを受けて本年もAP-S Kansai Chapterと合同で開催した。このような会がIEEE入会の契機となることも狙いとしている。

さらに、MTT-S Japan Chapterと共催で2009 IEEE MTT-S Japan/Kansai Chapters Young Engineer Awardの受賞者選定を行い、1名が選出され、11月26日（木）にMicrowave Workshops and Exhibition 2009 (MWE2009) の開催期間中に授賞式を開催した。この賞は、指定のIEEE論文誌に掲載された原著論文の筆頭著者でかつ、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献のあった38歳以下の若手の研究者を表彰するものである。

一昨年、関西におけるマイクロ波分野の主要な企業および大学からそれぞれ委員を募り「技術委員会 (Technical Committee)」を組織し、昨年はさらにGOLD Member, Student Memberによる「若手技術委員会 (WakaTe Committee)」を組織した。先述の英語発表会の開催はこの若手技術委員の貢献によるところが大きい。将来を担う若い技術者にこのような学会のイベント開催に携わってもらうことは学会の維持・拡大にとって重要であると考えている。

h. Photonics Society (formerly LEOS) Kansai Chapter

1月29日に京都工芸繊維大学（松ヶ崎キャンパス）にてLEOS Annual Meeting 2008 報告会を実施し、「LEOS Annual Meeting 2008 報告：プラズモニクスの光デバイス応用に関する最新研究動向」（岡本 晃一（京大））、「LEOS Annual Meeting 2008 報告：光通信デバイス」（中田 武志（NEC ナノエレ研））の2件を講演いただいた。同会場で電子情報通信学会 LQE、OPE、EMT、PN 各研究会と共催研究会を実施し45件の講演が行われた。3月13日には、京大にてLEOS Distinguished Lecturer (DL) 講演および京大第2回 G-COE 国際シンポジウム"2nd GCOE International Symposium on Photonics and Electronics Science and Engineering"（京大 21 世紀 COE 共催）を開催し、Dr. Weng Chow（Sandia National Laboratories, IEEE LEOS, DL）による"Introduction to a Many-Body Description of Semiconductor Lasers"を始めとした11件のご講演をいただいた。その他、1月から11月までで計15件の Technical meeting を実施し、合計50件の講演が行われた。参加者は30名から100名といずれも盛況であった。

なお、LEOSは2009年度に名称変更を行いIEEE Photonics Societyへ改称となった。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/leos/index.html>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2009年はIEEE内外との連携により、3件の共催講演会を開催した。

まず6月11日、IEEE 関西支部、及びNTT コミュニケーション科学基礎研究所との共催により、「信号強調と音場再生に関する最近の話題」と銘打ち、Georgia

工科大より Biing-Hwang Juang 教授、金沢大より三好正人教授という、音信号処理研究の権威 2 名を招いた。Juang 教授 (IEEE Fellow) からは、"A tutorial on signal enhancement with a new research paradigm"、三好教授からは、"高い臨場感をもつ音場の合成方法をめざして"というタイトルで、それぞれ最新の研究動向をご披露いただき、活発な議論が交わされた。参加者数は、約 50 名であった。

続いて 6 月 27 日には、日本音響学会関西支部、及び同音楽音響研究会との共催により、マリンバ奏者の通崎睦美氏、同じく今田香織氏、京都市立芸術大学名誉教授、大串健吾先生を招き、"マリンバ演奏と音楽音響学" (通崎氏)、"音響・聴覚・音楽研究の 45 年" (大串先生) の 2 件による講演会を開催した。気鋭のプロ演奏者としての通崎氏の講演は、ご自身の音響研究の経験も踏まえたもので、今田氏とのセッションによる演奏実演も併せて行う等、実に新鮮な試みであった。大串先生には、ご自身が第一人者として黎明期から長年にわたり携ってこられた音響・聴覚・音楽研究の歴史を克明に振り返っていただき、参加者 (約 45 名) 一同、大いに刺激を受けた。

さらに 9 月 15 日、IEEE 関西支部、及び NTT コミュニケーション科学基礎研究所との共催により、株式会社 村田製作所の門田道夫氏、同じく吉川浩一氏、東大阪宇宙開発協同組合の杵本日出夫氏を招き、"モノづくりの真髄にせまる研究開発"を基調テーマとする講演会を開催した。門田氏 (IEEE Fellow) は 2005 年春に紫綬褒章を受章した超音波エレクトロニクス応用部品開発の世界的権威で、"情報化時代をかげで支える村田の電子部品"と題する講演からは、最先端技術開発現場の生々しい息遣いが感じ取れた。吉川氏は 2005 年に発表された自転車型ロボット「ムラタセイサク君」の開発において中心的役割を果たしたエンジニアで、開発の背景・経緯、搭載したセンサ技術、制御技術についてのお話の後、セイサク君の実機デモや、子供向け「出前授業」等の活用事例をご披露いただいた。杵本氏は、小型人工衛星「まいど 1 号」で知られる東大阪宇宙開発協同組合の理事長で、講演では衛星開発の経緯や開発過程での苦労話と併せ、「まいど一号」が今現在どの上空にいるか等もご紹介いただいた。本講演会は、IEEE 125 周年記念イベントの一環として開催したものであり、参加者数は約 70 名を数えた。

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

Chapter 設立直後の 5 月 25 - 28 日に京都で、国際会議 IEEE 13th International Symposium on Consumer Electronics (ISCE2009)を開催した。この ISCE2009 では、およそ 500 編の投稿論文があり、250 編の論文を採択した。新型インフルエンザ騒動の時期で、アジアや関東からの欠席はあったが、200 名を超える参加者があり盛会であった。

この国際会議の運営にあたり、長谷 Chair が ISCE2009 の General Chair、野中が Technical Program Committee Chair、植村が Publication Chair を務める等、Kansai Chapter の多くのメンバが中心的な役割を果たした。

12 月 26 日に龍谷大学にて、ISCE2009 の実施報告、講演会 (中西徹氏「家電実装技術の最近動向」)を兼ねた Chapter の総会を開催した。そして、ISCE2009 で優れた研究発表を行った 3 名の若手研究者の表彰も併せて行った。参加者は、年末の慌ただしい時期であったが 20 名が集った。

6. IEEE マイルストーン報告

- ・ 関西支部 から IEEE History Committee に、IEEE Milestones として申請して

いた以下の2件

(1) “Kurobe River No. 4 Hydropower Plant, 1956-63”

および、

(2) “Commercialization and Industrialization of Photovoltaic Cells, 1959 -83”

が、本年9月21日付けで、認定された。

7. 協賛会議・後援

- ・ IMFEDK (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2009年5月14日(木)～15日(金)
場所：関西大学100周年記念会館
- ・ 2009 International Symposium on Electromagnetic Compatibility (EMC'09)
(2009年環境電磁工学国際シンポジウム)
日時：2009年7月20日(月)～7月24日(金)
場所：国立京都国際会館
- ・ 平成21年電気関係学会関西支部連合大会
日時：2009年11月7日(土)～11月8日(日)
場所：大阪大学吹田キャンパス

8. Region 10 Meeting

2009年2月28日(土)～3月1日(日)の日程でベトナムのハノイにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より東野事務局が中村支部長の代理として出席した。R10の活動報告と活動計画、支部運営に関する Training、125周年記念事業や TENCON の紹介などが中心であった。

9. WIE 活動

女性会員間の交流を目的として情報の共有化のため、MDC と SAC の合同ミーティングへの参加等、MDC、SAC のサポートを得て、WIE 活動を組織化する方向で調整中である。

10. 情報の発信

(1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバーをお借りして設置した下記ホームページでタイムリーに情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

(2) 電子メールの利用

技術講演会、協賛会議等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

(3) News Letter

GOLD 賞、学生研究奨励賞の募集をはじめ、関西支部に関する情報を News Letter 形式で5月と9月及び、125周年記念 Student Congress2009 特集号に提供した。また、Computer Society Chair との交流に関して、関西支部の活動が Computer Society News Letter に掲載された。

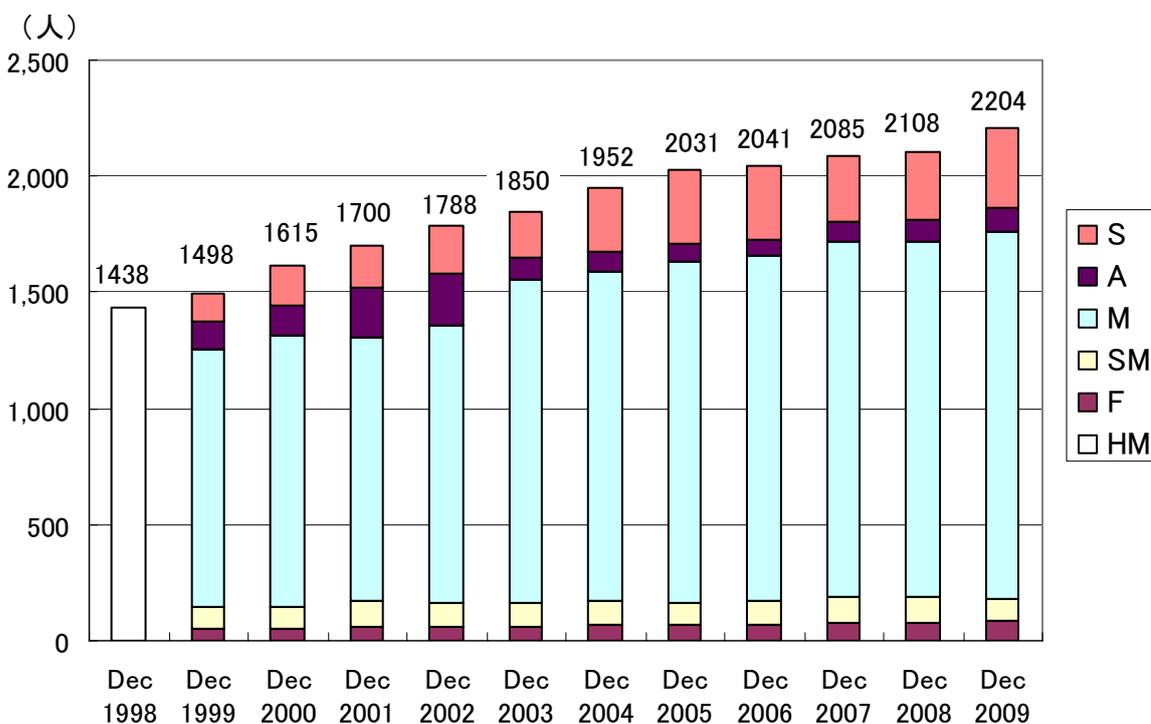
IV 関西支部会員数

1. グレード別会員数

2009.12 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	0
Life Fellow	LF	33
Fellow	F	51
Life Senior Member	LS	6
Senior Member	SM	94
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	45
Member	M	1,530
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	107
Graduate Student Member	GSM	214
Student	StM	124
Total		2,204
Affiliate of an IEEE Society	AF	133

上記集計では、**Active** 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。2010年1月においてAR（1年未満滞納者）は235名である。



2. ソサイエティ別会員数

2009.12 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP-01	147
Broadcast Technology	BT-02	10
Antennas and Propagation	AP-03	68
Circuits and Systems	CAS-04	143
Nuclear and Plasma Science	NPS-05	18
Vehicular Technology	VT-06	39
Reliability	R-07	0
Consumer Electronics	CE-08	42
Instrumentation and Measurement	IM-09	18
Aerospace and Electronic Systems	AES-10	13
Computational Intelligence	CIS-11	89
Information Theory	IT-12	52
Industrial Electronics	IE-13	43
Engineering Management	EM-14	0
Electron Devices	ED-15	203
Computer	C-16	497
Microwave Theory and Techniques	MTT-17	145
Engineering in Medicine and Biology	EMB-18	65
Communications	COM-19	199
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC-20	41
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT-21	28
Oceanic Engineering	OE-22	12
Control Systems	CS-23	95
Robotics and Automation	RA-24	101
Education	E-25	14
Professional Communication	PC-26	1
Electromagnetic Compatibility	EMC-27	22
System, Man and Cybernetics	SMC-28	92
Geoscience and Remote Sensing	GRS-29	13
Social Implications of Technology	SIT-30	5
Power Engineering	PE-31	43
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI-32	12
Magnetics	MAG-33	36
Industry Applications	IA-34	39
Power Electronics	PEL-35	41
Photonics (formerly LEOS)	PHO-36	115
Solid-State Circuits	SSC-37	163
Intelligent Transportation Systems	ITSS-38	17
Product Safety Engineering	PSE-43	3
Total		2,684

V 2010 年 活動計画

1. 総会

2010 年 2 月 22 日 (月) 15:00~17:30 の予定で、2010 年定例総会を実施する。

2. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、講演会を実施する。

3. 理事会

第 1 回理事会 1 月 26 日

・ 2009 年活動計画 ・ 2009 年各 Committee の活動計画 ・ 2010 年予算
(案)

第 2 回理事会 2 月 22 日

・ 2010 年総会について

2010 年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

4. 関西支部 GOLD 賞

2009 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

5. 関西支部学生研究奨励賞

2009 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6. 関西支部メダル

2009 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に対して関西支部メダルを授与する。また、2008 年新 Senior Member の方で手続きが間に合わず、2009 年に授与できなかった方に授与する。

7. WIE 活動

関西支部内の WIE (Women in Engineering) 活動の活発化を目指す。

8. 各 Committee 活動計画

a. Membership Development Committee

- (1) 2010 年も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、前年度と同様に会員の増加に結びつける。特に、新卒者の、学生会員から会員への移行が途切れないように、MDC 委員会参加機関に協力をお願いする。
- (2) 2010 年度は、Senior Member への昇格者の大幅増に最大の力点を置く。前年度は成果が得られなかった点を反省し、各機関に推薦を強力に働きかける。
- (3) 前年度と同様に、Student Activity Committee と連携を深め学生会員の増加につなげる。また、WIE への支援を行い女性会員の増加につなげる。

b. Nominations Committee

- (1) 2009 年と同様に、Membership Development Committee と共同して Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。

- (2) **Fellow** 候補者をできるだけ多く推薦する。**Fellow Nomination** に関して、2009 年と同一手順で実行の予定。併せて、**Senior Member** に対し、**Fellow** 制度への関心の醸成を行う。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、**Student Branch** の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学 **Branch** からの支援で、関西大学、神戸大学、大阪府立大学他を対象に **Student Branch** の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、**IEEE** 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 5 大学 **Student Branch** の協力により、**Student Branch** が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 5 大学 **Student Branch** を中心に、交流会を引き続き開催し、**Student Branch** 間の交流を深める。

(3) Affinity Group 設立準備への協力

関西支部で検討されている **GOLD** ならびに **WIE** の **Affinity Group** 設立準備に関して、各 **Student Branch** 所属の **GOLD** 会員ならびに女性会員と密接に連携しつつ尽力する。

(4) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した **IEEE** 関西支部学生研究奨励賞を (**Awards Committee** と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。

(5) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

2009 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2010 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、シリーズ講演会の開催などにも取り組む。

e. Awards Committee

2009 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「**IEEE** 関西支部 **GOLD** 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「**IEEE** 関西支部学生研究奨励賞」の募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

f. Chapter Operations Committee

関西支部内の **Chapter** で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 **Chapter** の活動をさらに活性化させる。具体的には、**COC** 委員会における各 **Chapter** 活動

報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、今後関西支部で新設を予定する Chapter に対し、その新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを通じ、新設に向けた支援を展開する。

9. Kansai Chapter 活動計画

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2010 年も前年度に引き続き、国際会議、技術講演会を中心に積極的に活動を展開する。関西発の国際会議である”International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK)”は、5 月 13-14 日に関西大学 100 周年記念館において主催予定であり、特に関西地区の大学の学生の加入推進のため、Student Poster Paper Session のいっそうの充実を図る予定である。

定例の関西コロキウム電子デバイスワークショップも 10 月に開催の予定である。このワークショップでも、若手研究者の活躍を奨励する目的で、Award の充実を図る予定である。デバイスの最新研究開発動向を知る上で重要な国際学会である IEDM の報告会は 2010 年も 1 月 26 日に既に関西大学 100 周年記念会館にて開催済みであり、日本国内の Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) も 2 月に開催する予定である。

この他、関西地区で開催される各種会議・研究会にも積極的に協賛し、引き続き会員獲得にも努めていく計画である。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2010 年も技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。6 月頃と 11 月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。また、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2010 年も 2009 年と同様に、技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し (9 月 VLD 研究会共催予定)、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

昨年に引き続き (1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動することを予定している。具体的には、2010 年 4 月の電子情報通信学会アンテナ伝播研究会において IEEE AP-S Kansai Chapter 主催の特別講演を予定している。また、7 月にはチュートリアル講演会、10 月には英語発表会、12 月にはアンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ、若手交流会の開催を

予定している。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。7月および11月頃に技術講演会を開催し、通信関連の若手研究者を中心に講演をいただく予定である。また、引き続き、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2010年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。

また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g. MTTs (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2010年も技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動することを予定している。さらにマイクロ波講習会も、昨年と同様に基礎講座とするか、昨年の発展形となる応用講座とするかを検討した上で開催を企画する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援を引き続き行う。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

h. Photonics Society (formerly LEOS) Kansai Chapter

2010年も、6回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。既に、1月28日~29日の電子情報通信学会 LQE/OPE/EMT/PN 合同研究会（京都大）と併催の形で小池氏（日立製作所）および石川氏（東大）による IEEE Photonics Society Annual Meeting 2009 報告会を1月28日に開催している。

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、知見の向上を図る。

Signal Processing Society のカバーする技術分野は、信号処理、及びその応用に関わる広い領域にわたっている。これに対応する上で、分野的に関連する他学術組織との連携は重要であるため、他学会、研究会等とは積極的に連携し、共催、協賛での行事開催に取り組む。また、共催、協賛行事を通じて、非会員に対する積極的な入会勧誘にも努める。

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

1月10日に米国・ラスベガスで開催された Consumer Electronics Society の AdCom Meeting において、長谷 Chair が 2012 年に開催予定の Consumer Electronics Society 主催のゲーム関連技術の国際会議 4th IEEE Games Innovations Conference (GIC2012) の General Chair に選ばれ、併せて日本が開催国に決定した。

中期的（2012年までの3年間）な活動としては、このGIC2012に向けて、Kansai Chapterを中心に運営組織を作り準備活動を開始する。併せて、GIC2012への投稿論文の質と量を確保するために、国内外の学会や研究会、関係業界・団体との交流を図る。

短期的（2010年）な活動としては、若手研究者の育成とKansai Chapterの会員増を目的に、本格的な講演会や研究発表会の開催をする予定である。また、6月にドイツで開催される国際会議ISCE2010で優れた研究発表を行う若手研究者の表彰も併せて行う予定である。

10. 協賛会議（2009年1月20日現在予定分）

- ・ IMFEDK2010 (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2010年5月13日（木）～14日（金）
場所：関西大学100周年記念会館
- ・ ITST2010 (Intelligent Transport System for Telecommunications 2010)
日時：2010年11月9日（火）～11日（木）
場所：コープイン京都

VI 2009年 会計報告

収入の部	予算案	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	4,631,497	4,771,152		
・ Section Rebate 2009 (IEEE 本部より)	1,059,282	1,133,959	\$12,021.2@94.33 円/\$	6/29
・ Section Assessment 2009 前期 (同上)	3,440,700	3,578,303	\$36,387.06@98.34 円/\$	5/8
・ Section Assessment 2009 後期 (同上)	105,075	58,890	\$656.97@89.64 円/\$	10/20
・ MDC Subsidy/Grants for Student Branch (同上)	26,370	0		
◆その他	880,890	1,165,712		
・ Section 支援金 (GOLD 賞楯代)	107,100	168,682	JC より (2008 申請分)	4/30
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	320,000	384,000	JC より (2008 申請分)	4/30
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	168,790	168,790	JC より (2008 申請分)	4/30
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	0		
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	0		
・ Section 支援金 (旅費)	0	0	JC 理事会	
・ Section Congress2008 支援金	135,000	235,825	\$2,500@94.33 円/\$	6/29
・ R10SSVR(125 th Anniversary)支援金		26,415	\$300@88.05 円/\$	11/20
・ 懇親会費徴収	0	182,000	総会懇親会,56 th 講演会懇親会	2/25,11/27
◆利息	0	1,846		
◆2008年からの繰越金	1,843,130	1,843,130		
合計	7,355,447	7,781,840		

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4×(Fellow, Senior 会員数 = 187)+\$3×(Member, Associate, Student 会員数 :1,923)+\$1.5×(Affiliate 会員数 :150)+\$200×(Chapter 数 :9) } ×1.10+\$200(Section onus)+\$225(Chapter Bonus) Chapter Bonus は SSCS,MTTS,LEOS 分

支出の部	予算案	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	3,707,775	3,882,939		
・ Japan Council 拠出金	3,545,775	3,635,693		6/17,10/30
・ Chapter Rebate	162,000	191,019	(\$200×9+\$75×3(SSC, MTT,LEO) @94.33 円/\$)	7/14
・ JC 支援費余剰金返却	0	56,227	GOLD 賞楯代差額	10/30
◆会合・AWARD 費	1,860,680	2,175,256		
・ 総会費	200,000	286,757	会場費, 資料代など	2/19
・ 講演会	90,000	77,640	第55回1名、第56回1名、第56回会場費	8/21,10/16,11/11
・ 理事会費	230,000	206,175	会場代, 飲食代	2/12,3/16,6/10,6/17,9/9,12/25,11/27
・ Committee 会合費	400,000	419,957	MDC/SAC2 回(予定),COC	9/1,9/9,12/29
・ GOLD 賞費	107,100	112,455	楯代	2/24,2/26
・ 学生研究奨励費	346,000	383,942	賞金,賞状代	2/17,2/24,2/25,6/29
・ 支部メダル費	337,580	337,580	造幣局	2/12
・ Student Branch 支援費	50,000	38,133	立命館大 SB	12/11,12/25
・ IEEE Milestones 関連費用	100,000	312,617	Plaque 代立替 (関電, ジャープ)	11/30
◆事務経費	35,000	34,762		
・ 事務用品費	4,000	262	乾電池	
・ 旅費	30,000	22,620	GOLD 賞,学生研究奨励賞,Student Branch 交通費	
・ 通信費	1,000	11,880	郵送費	
◆雑費	40,000	15,078	為替手数料, 振込手数料等	
◆2010年への繰越	1,711,992	1,673,805		
合計	7,355,447	7,781,840		

VII 2010年 予算案

収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,369,820	
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	1,084,164	\$12,320.05 (2009.12 会員数より推定)
・ Section Assessment 2009 前期 (同上)	3,202,056	\$36,387 (2009 年実績)
・ Section Assessment 2009 後期 (同上)	57,816	\$657 (2009 年実績)
・ MDC Subsidy/Grants for Student Branch (同上)	25,784	\$293.00 (2009 年会員数より推定)
◆その他	1,210,452	
・ Section 支援金 (GOLD 賞楯代)	63,000	JC より (2010 申請予定) (1 個)
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	353,942	JC より (2010 申請予定) (11 名)
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	115,890	JC より (2010 申請予定) (10 個)
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	JC より (講演会等)
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	
・ Section 支援金 (旅費)	15,000	JC より (JC 理事会)
・ Section 支援金 (外部監査費代)	210,000	JC より (2010 申請予定)
・ IEEE Milestones 関連費用	312,620	Plaque 代立替分回収 (関電, シヤープ)
◆2009年からの繰越金	1,673,805	
合 計	7,254,077	

88 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000+\$4×(Fellow, Senior 会員数 :184)+\$3×(Member, Associate, Student 会員数 :2,020)+\$1.5×(Affiliate 会員数):133)+\$200×(Chapter 数 :10) } ×1.10+\$200 (Section Bonus)+\$225(Chapter Bonus) 会員数は、2009.12 月現在

支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,473,272	
・ Japan Council 拠出金	3,259,872	\$37,044 (2009 年実績)
・ Chapter Rebate	213,400	(\$200×10)
◆会合・AWARD 費	1,546,890	
・ 総会費	200,000	会場費, 資料代など
・ 講演会	90,000	3 名分
・ 理事会費	200,000	会場代, 飲食代
・ Committee 会合費	360,000	MDC/SAC2 回, COC
・ GOLD 賞費	65,000	楯代, 交通費補助
・ 学生研究奨励費	366,000	賞金, 賞状代
・ 支部メダル費	115,890	造幣局 (10 個)
・ Student Branch 支援費	50,000	立命館大学 English Presentation Competition
・ WIE 支援費	100,000	講演会等
◆事務経費	237,000	
・ 外部監査費	210,000	JC よりの支援費を充当
・ 事務用品費	2,000	ファイル等
・ 旅費	15,000	
・ 通信費	10,000	郵送費, 宅急便等
◆雑費	35,000	為替手数料, 振込手数料など
◆2011年への繰越	1,961,915	
合 計	7,254,077	

88 円/\$として計算

VIII 受賞者

IEEE 関西支部 GOLD 賞受賞者

計 1 名 (敬称略)

大亦 真一 (立命館大学)

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者

計 11 名 (アルファベット順、敬称略)

藤井 彩恵 (大阪大学)
更田 裕司 (大阪大学)
廣本 正之 (京都大学)
河野 和宏 (大阪大学)
南川 恭洋 (大阪大学)
大野 卓人 (京都大学)
岡本 大 (奈良先端科学技術大学院大学)
関 宏理 (大阪大学)
Hoang Anh Tuan (立命館大学)
徐 亮 (京都大学)
吉田 悠来 (大阪大学)

IEEE 関西支部 メダル受賞者

計 8 名 (アルファベット順、敬称略)

長谷 智弘 (龍谷大学)
伊与田 功 (大阪電気通信大学)
櫛木 好明 (パナソニック)
丹羽 正昭 (パナソニック)
小川 真人 (神戸大学大学院)
奥村 浩士 (ブリティッシュコロンビア州立サイモンレーザー大学)
杉浦 博明 (三菱電機)
米田 友和 (奈良先端科学技術大学院大学)

IEEE 関西支部 新 Fellow

計 5 名 (アルファベット順、敬称略)

有本 和民 (ルネサス テクノロジ)
畑 豊 (兵庫県立大学)
羽馬 洋之 (三菱電機)
大村 泰久 (関西大学)
寺西 信一 (パナソニック)

IX Bylaws

IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Regional Activities Board (RAB) Bylaws and Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by RAB, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary & Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section 3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

- Standing Committee Chairs
- representatives of Chapters,
- such other members appointed by the Section Executive Committee,
- and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of an three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

- Appointment of Nominating Committee: by August 31
- Announcement of Nominations: by September 30

Close nominations by petition: by October 31
Hold election: by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, RAB Bylaws and RAB Operations Manual.

2010 年 IEEE 関西支部連絡先

〒570-8501 大阪府守口市八雲中町 3-1-1
パナソニック株式会社 中尾研究所内
IEEE 関西支部事務局

e-mail : sec-kansai@ieee-jp.org

Web URL : <http://ewh.ieee.org/r10/kansai/>
<http://www.ieee-kansai.org/>